



Vol. 36 No. 1
2019. JUN



秋田県作業療法士会 印刷 川嶋印刷株式会社

発行 一般社団法人 秋田県作業療法士会 ホームページ <http://akita-ot.jp>
会長 高橋 敏弘
編集 一般社団法人 秋田県作業療法士会広報部
〒018-5421 秋田県鹿角市十和田大湯字湯ノ岱 16-2
大湯リハビリ温泉病院 作業療法室・児玉 達則
TEL 0186-37-3511 FAX 0186-37-3483
E-mail akita_ot_kouhou@akita-ot.jp
事務局 〒010-0041 秋田県秋田市広面字屋敷田 25-2 セジュールエスト 105 号
TEL/FAX 018-837-0552
E-mail akita_ot@akita-ot.jp

巻頭言 令和元年の県士会の活動重点課題について

県士会長 高橋 敏弘

元号が「令和」に変わり、県士会も新しい理事を迎え新年度の活動が始まりました。

総会時に今年度の活動方針についてお話しましたが、重要な課題の2点について改めてお伝えいたします。

理学療法士・作業療法士学校養成施設のカリキュラムが変わり平成32年の入学生から適用となります。この中で臨床実習指導者の要件が大きく変わり、「臨床経験5年以上かつ厚生労働省が指定した臨床実習指導者講習会等を終了した者」となります。

この臨床実習指導者講習会は全国リハビリテーション学校協会都道府県連絡校、各都道府県理学療法士会及び作業療法士会の3者で協議を行い各県で開催することになります。2019年度は日本作業療法士協会が全国8カ所（詳細はOT協会のHPでご確認ください）で開催されます。秋田県士会では秋以降に研修会を開催できるように準備を進めて行きますが、今年度はOT協会主催又は県士会主催のいずれかの研修会を受講が可能です。尚、2020年度からは生涯教育制度にこの研修会が位置づけられる方向で検討されています。臨床経験5年以上の会員はこの研修会を受講し臨床実習指導者として後輩の育成に関わることができるように準備をお願いいたします。

もう一点はメーリングリストへの各個人のメールアドレス登録のお願いです。県士会も会員数の増加に伴い文書等の印刷、発送のコストや作業量が増え、事務局の負担が年々大きくなっています。毎年メーリングリストの登録をお願いしていますが登録者数が増えず、また職場のアドレスのみの登録で職場内の会員に情報が確実に伝わっていないとの声もあります。

OT協会や他団体等から研修会の案内や様々な情報提供のほとんどが事務局にメー



ルで入ってきます。随時メールリストで会員に配信していますが登録者にしか情報が届かず、県士会ホームページにアップしても会員が確実に見ているか確認できません。

また、災害時の安否確認や情報の伝達、共有手段の一つとしての用も検討しており、各会員のアドレス登録 100%を目標に掲げています。

OT協会の機関誌が電子化されましたが、県士会も学会の抄録集などはホームページから各自ダウンロードする方向を検討しています。メールリストとホームページを活用して（例えば研修会の案内はメールリストで配信、申し込みはホームページから等）文書等の電子化の早期実現を目指します。

まだ未登録の会員は出来るだけ早期のアドレス登録にご協力をお願いいたします。

印象記「第 27 回秋田県作業療法学会」に参加して

発表者 羽後町立羽後病院 石橋 ちはる

平成 31 年 4 月 20 日、横手セントラルホテルにて、第 27 回秋田県作業療法学会が開催されました。

今学会のテーマは「地域連携における作業療法の役割」で、地域連携に沿った特別講演として 2 題聴講しました。

この講演を通して、地域ではどのような事が行われているのか、多職種がどのような働きをしているのか、1 人の対象者に対してどれ程たくさんの職種の方が関わってプランを立案しているのかを改めて学ぶことができました。以前「きりたんぼ」に第 27 回秋田県作業療法学会のご案内で記載されていた学会長の 1 文で「可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができるように」とありました。自分らしい暮らしを続けられたらどれだけ幸せなことなのだろうと思ったのと同時に、私には何が出来るのだろうと考えさせられました。高齢化が進み、対象となる方がこれから増加してきます。それに伴い地域連携に携わる方々の人数も多く必要になってくるのが考えられます。今の段階では、作業療法の参加人数が少ないということと作業療法の職種が知られていないというのが現状で、実際働いていても、対象者から「作業療法士ってどうゆう仕事なの？」と聞かれることが多々あります。地域包括ケアシステムを通して、まずは多職種の方々に作業療法の事を知っていただくことが大切なのかなと感じました。私も、関わる機会があれば貢献していきたいと思います。



そして、一般演題として「橈骨遠位端骨折術後 掌側ロックプレート固定術に対する作業療法の検討」について発表をさせていただきました。多くの質問を頂いて、限られた短い時間でしたが、先生方とディスカッションする事が出来、良い経験をさせていただきました。整形疾患に関してだけではないのですが、医療の進歩に伴い、プロトコール等、進め方が徐々に変わってきている印象があります。当院では、主治医と連携を取り合い、文献や根拠となるものを探りながら進めています。今回の発表を通して、他の病院では、どのように作業療法を進めているのか、情報を共有できる機会があれば、ありがた

いなと感じました。また、私は経験年数が少なく、学会や研修会を通して、経験豊富な先生方とお話しをさせて頂き、視点や考えの幅を広げ、臨床で活かしていきたいと思いました。

最後に、今回は県南開催ということで、実行委員会に参加させて頂きました。学会開催にあたり、何カ月も前から段取りや準備することが多々あり、多くの先生方の協力が必要でした。

今までは、ただ作業療法士会員として参加させて頂いていたので、これほどの協力、努力があつての学会ということを知れて、大変良い経験をさせて頂きました。今回このような機会を頂いた事、深く感謝いたします。ありがとうございました。

印象記 第27回秋田県作業療法学会に参加して

聴講者 大曲厚生医療センター 小松 憲祐

平成31年4月21日(土)に横手セントラルホテルにて第27回秋田県作業療法学会が開催されました。今回、初めて秋田県作業療法学会に参加させて頂き、様々な考えを聞くことができたことで自身の知識や視野の幅を広げる良い機会になりました。また、今回は実行委員としての参加ということもあり、多少不安な所もありましたが、実行委員長の寺尾崇氏やその他の実行委員の方々のご協力により会場設営や自身の役割をスムーズにこなすことができたと思います。

一般演題発表では県内の医療機関並びに施設から6名の方々が発表され、特に羽後町立羽後病院の石橋ちはる氏が発表された「橈骨遠位端骨折後掌側ロッキングプレート固定術に対する作業療法の検討」では、橈骨遠位端骨折術後の手関節機能へのスプリント装着の影響と適切な作業療法の介入時期の検討について報告されました。術後早期からスプリントを装着せずに可動域運動を行った群とスプリント装着し1週間の安静期間を経て加入した群では可動域等に有意差はなく、スプリントの安静期間は不要とのことでした。実際、当院ではスプリント固定での安静期間を経て外来通院される場合が多く、少なからず可動域制限が生じております。このようなことを考えると機能改善を図る上では早期からの介入が有用であること、また、セルフコントロールにおいても早期から介入で患側上肢の使用や早期の生活機能への復帰に繋がるといった今回の報告は、今後の臨床において参考にさせて頂きたいと思うような点が多くありました。

午後の特別講演では「地域包括ケアシステムの横手市の取り組みについて」というテーマで横手市市民福祉部高齢ふれあい課の課長としてご活躍されている内桶圭時氏と、「ケアマネジメントと地域における多職種連携の在り方」というテーマで日本赤十字秋田短期大学介護福祉科教授としてご活躍されている井上義之氏の2人からそれぞれご講演いただきました。内桶氏は横手市職員として、井上氏はケアマネジャーとしてそれぞれの立場から作業療法士に対して期待していることが述べられておりました。昨今、地域包括ケアシステムにおける医療介護連携の中で、作業療法士は連携の調整役として活躍が期待されている職種の一つとされています。地域の中核病院に従事する私たちですが、地域ケア会議への参加



等、今後行政との連携が求められることも予測されるため、地域並びに介護保険分野へも目を向けていくことが重要と改めて感じる講演となりました。

最後になりますが、鈴木新吾学会長をはじめとして学会運営に携わった皆様に感謝申し上げます。私は、まだまだ臨床経験が浅いため、今後は作業療法士としての技術面の向上を図ることはもちろん、今以上に専門的知識を深めるため日々精進して行きたいと思えます。

印象記 第27回秋田県作業療法学会に参加して

聴講者 秋田県立循環器・脳脊髄センター 高橋 亜花里

今回、学会で一般演題や特別講演を聞き、特に印象に残ったことは、地域包括ケアシステムや多職種連携についてです。この2つについては最近よく耳にしますが、私は現在回復期を担当しており、どのように関わっていくべきなのか、疑問に思っていました。今回の学会では、領域に関係なく作業療法士としてどのように地域に携わっていくかを考えていく、良いきっかけとなりました。

まず、内桶圭時先生の「地域包括ケアシステムの横手市の取り組みについて」という特別講演についてです。横手市では生活支援体制整備事業として買い物支援など、市民が中心となってネットワークを作り、市は運営等のバックアップを行っているという話を聞きました。具体的な話を聞くことで、支援を必要としていても制度からこぼれ落ちる人々がお互いに助け合っていくシステムを作ることが地域包括ケアシステムの目的なのだとして改めて理解できました。また地域ケア会議では、困難事例だけでなく、元気な人が寝たきりにならないような自立支援もしており、専門職も含めて会議をしているという話も印象に残っています。作業療法士としては、その人らしい生活ができるように福祉用具等の手段を考えるなど、専門職としての視点でアドバイスしていくことができると分かりました。

次に、井上善行先生の「ケアマネジメントと地域における多職種連携のあり方」についてです。今まで曖昧に捉えていたケアマネジャーの仕事に関して、ケアマネジメントとは生活上のニーズを解決するために、あらゆる資源を活用して一定の手続きをふんで行われる支援の手法であり、ケアマネジャーを中心として多職種とつながることができるという重要な役割があると理解できました。そのため、ケアマネジャーと上手く交流を図ることが、対象者の地域での生活をより良くするのだと感じました。加えて、多職種連携の今後の課題として専門性の向上や住民の自立生活のイメージの教育が大切だと学びました。多職種連携をするにあたって、お互いの専門性について理解することや、住民に作業療法士の役割について啓発し必要とされることで、サービスの質が向上することは明白です。しかし、いざ作業療法士の役割の説明を求められると、上手く言葉にできず、「理学療法と何が違うの」と家族にも言われてしまうのが作業療法士2年目の現状です。そこで井上先生の、「OTは目的を持った作業（役割）につなげられる。」という言葉聞いて納得させられました。この言葉を元に作業療法の役割について考



えていきたいです。

最後に、一般演題で宮田信悦先生の話にもありましたが、多職種が出ている研修会に参加してみることや、退院前カンファに積極的に参加することで作業療法士を認知してもらうことが大切だと分かりました。自分の領域に関係なく、まずは研修会や退院前カンファに参加し、作業療法士の役割を分かりやすくアピールしていくことで、徐々に地域にも携われるようになりたいと考えます。今回の学会に参加できたことに深く感謝致します。ありがとうございました。

新入会員さんより👏👏👏👏

第27回秋田県作業療法学会の報告

中通リハビリテーション病院 石黒 智也

平成31年4月20日に第27回秋田県作業療法学会が開催され、初めて参加させていただきました。入職してから1か月も経過しては、業務を覚えることで精一杯な日々を送っていましたが、6つの演題発表と2つの特別講演を通して私が患者さんや地域のために何ができるのかということ考えることができました。

一般演題では、私がこれまで臨床実習で経験していない疾患もあり、介入に不安を抱えていたものの経過や予後について詳細に報告されていたため理解が深まったように思います。秋田県に関する演題も2つあり、これまで4年間秋田県を離れていた私にとって非常に興味深いものでした。

「調理動作を再獲得し自宅復帰した重度右片麻痺の一例」では機能回復だけでなく、患者さんや家族と話し合うことで障害理解について共通認識を得たことは不安の軽減や意欲の向上が期待されるため、私自身も今後の介入に生かしていきたいです。また退院後の調理動作の状況も確認されていたことから、退院後の環境を想定して介入することの重要性や退院がゴールではないということを改めて学ぶことができました。

2つの特別講演では横手市市民福祉部高齢ふれあい課課長の内桶圭時先生から「地域包括ケアシステムの横手市の取り組みについて」というテーマで、日本赤十字秋田短期大学 介護福祉学科 教授の井上義之先生から「ケアマネジメントと地域における多職種連携の在り方」というテーマでお話しいただきました。地域包括ケアシステムについては私が大学時代のときからよく耳にする言葉でしたが、今回は横手市が独自で行っている地域支援事業について知ることができました。リハビリテーション専門職は地域包括ケアセンターなどと連携し、地域の方々が参加しやすい環境を作っていく、住民主体の活動を増やしていくよう支援する必要性を認識しました。生きがいや役割をもって生活できる地域の実現はどの地域においても重要な部分であるため、横手市だけではなく他の市町村が取り組んでいることにも関心を持っていきたいです。

ケアマネジメントに関しては、講演を聞く前まで少し曖昧な部分がありましたが、お金や時間をかけないで効率的に生活上のニーズを解決することがケアマネジメントの仕事ということを学びました。多職種の視点から1人の患者さんを捉える際に、作業療法ではADLと役割を結びつけ、退院後の生活環境でどのような役割は担えそうかと考え、提案することで専門性を高められると考えさせら

れました。動けるようになって退院しても在宅では動かなくなったということも存在するので、動作の改善が見られる点で肯定的な声掛けにより不安の軽減に繋げていきたいと改めて思いました。今後は作業療法らしさを追求しながら臨床で経験を積み、患者さんや地域の発展に貢献していきたいと思えます。

作業療法士になって

平鹿総合病院 藤原 朱

この春、私は念願の作業療法士になることができました。私が作業療法士の存在を知ったのは中学3年生の時です。学校の授業で、自分が将来つきたい職業を紹介するというものがありました。当時、具体的にしたい仕事が見つからず、悩んでいた私に助言をしてくれたのは介護福祉士の仕事をしている母でした。母は同僚との話の中で作業療法士という仕事があることを知り、私に紹介してくれたそうです。作業療法士について詳しく知っていたわけではないようですが、私は小さい頃から手芸や物作りなどが好きで手先が器用だったため、その事を仕事に生かせないかと考えてくれたそうです。

このことがきっかけで、私は作業療法士に興味を持つようになりました。高校では2年生の夏、インターシップで地元の病院を希望し、リハビリテーション科の見学をさせていただきました。進路についてきちんと決めなければならない時期が迫ってきており、色々悩んでいましたが、以前から興味があった作業療法士の仕事を見学させていただくことにしました。この時、実際に見たり聞いたりして、作業療法士は作業を通して人の役に立つことができるということに気がきました。そのことに魅力を感じ、作業療法士になりたいと強く思うようになりました。

作業療法士になるための大学受験や大学での勉強、臨床実習、国家試験など、とても大変でしたが、その苦勞を乗り越えて無事に作業療法士になることができ、今までにないくらいの達成感を感じました。また、私は自分の生まれ育った秋田が大好きだったので、地元の役に立ちたいと考えていました。この度、秋田に就職することが出来て本当に嬉しく思います。今回、秋田県作業療法学会に参加してみて、先輩達の地元での活躍を知ることができ、私も地元のために頑張りたいという思いが一層強くなりました。また、学会では実習の際にお世話になった病院や施設の先生方とお会いすることができました。先生にお会いした際、「もう同僚ですから、これから一緒にがんばりましょう。」と声をかけていただき、作業療法士になれて本当によかったと思えました。

今まで私を支えてくださった沢山の先生方に感謝し、作業療法士の先輩方のように活躍できるよう、日々精進していきたいです。



学会長より

第27回秋田県作業療法学会をふりかえって

やすらぎの苑 鈴木 新吾

平成31年4月20日に横手市の横手セントラルホテルを会場として、第27回秋田県作業療法学会が開催されました。今回は学会を振り返って報告したいと思います。学会プログラムとして、午前是一般演題発表、秋田県作業療法士会総会、午後には二題の特別講演がありました。また、学会閉会后には懇親会、新入会員歓迎会が行われました。当日は131名の参加者があり、横手市に大勢の方が来て頂きました。

さて、今学会のテーマは「地域連携における作業療法の役割」としました。近年のトピックスの一つとして地域包括ケアシステムが挙げられます。これは高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることが出来るように包括的な支援やサービスが提供できる地域の仕組みの事です。システムの要素の一つとしてリハビリテーションが挙げられており、作業療法士も寄与する事が求められています。今回の特別講演では、このテーマに沿って二つを企画しました。まず、はじめに横手市市民福祉部高齢ふれあい課課長の内桶圭時先生に「地域包括ケアシステムの横手市の取り組みについて」を講演して頂きました。次に日本赤十字秋田短期大学介護福祉学科教授の井上義之先生に「ケアマネジメントと地域における多職種連携の在り方」を講演して頂きました。私自身これらのテーマについては勉強の身であり、多くを学ぶことが出来ました。現在、地域包括ケアシステムについては作業療法士などリハ関連職種が関わっている例は少なく、今後期待されている状況のようです。私たちが普段行っている業務に加えて地域で行われている活動に参加していくためには、周囲の理解などの要素もあると思います。このようなことを踏まえて、機会があれば協力し少しでも地域とのつながりを作って行けば活動の範囲を広げることが出来るのではないかと感じました。

また一般演題では県士会員による発表が行われ、大変興味深く聞くことが出来ました。演題発表は私たちが普段行っていることを報告し、意見交換を通して学んでいく場でもあります。今後も県士会員の皆様には積極的に取り組んでもらいたいと思います。

今学会は久しぶりの県南地区担当となりました。実行委員長の寺尾崇先生、事務局長の高橋洋先生をはじめとして多くの方が実行委員として準備・運営に関わって頂きました。皆様のご協力があり、無事学会を終えることが出来ましたこと、心より感謝申し上げます。



「学びを結果に変えるアウトプット全体」

【著者】精神科医 樺沢紫苑 【出版】サンクチュアリ出版

【価格】¥1450+税 【ページ数】269頁

書評

大湯リハビリ温泉病院 高田 昌幸

新年度となり、私も作業療法士として8年目を迎えました。後輩や学生に自身の経験、知識を教えることも増えてきましたが、インプットしたはずの知識もまとまらず上手くアウトプット出来ないなど感じる中で、この本を読んでみる事にしました。

まずアウトプットとは「運動」であるということが述べられています。書く、話すといった手、口など運動神経と筋肉を使った記憶は「運動性記憶」と呼ばれ1度覚えると、その後は忘れることがないようです。(久しぶりに自転車に乗り、乗り方を忘れていないように) 見て覚えるなどの「意味記憶」は覚えにくく忘れやすい特徴があるようです。

そしてアウトプット能力を最大限に引き出すには、書くことが大事であり、話す事よりも圧倒的に記憶に残りやすいようです。そしてスマートフォンやパソコンなど簡単に文字を打てる時代ですが、手書きの方がブローカ野の活性が促されタイピングより学習効果が高いことが研究で分かったそうです。

しかしインプットしアウトプットすれば、長期記憶として保存させる訳ではありません。アウトプット後にフィードバックすることが重要となります。なぜ失敗したのか？原因は何か？成功した場合もなぜ成功したのか？研修会で学んだことを実施し失敗したとしても技術不足だけで終わらせず、何故上手くいかなかったか原因追究が必要になります。

違う本の話になりますが書店にて「メモの魔力」という本がビジネス書ベストセラーとして並んでいるのを見かけます。著者の SHOWROOM 社長前田祐二さんは幼少期の頃から常にメモをとっているようです。メモをとる理由としては備忘のためだけではなく、知的生産の意味でもメモをとっているようです。疑問に思ったことや人の話を常にメモを取り、重要な事を隣のページに書き、ビジネスのアイデアになりそうなことを更に書き込みインプット→アウトプット→フィードバックを繰り返しています。このように常に学ぶ意欲を持ち昔から継続して行えている事が経歴は省略しますが、現在の活躍(結果)に繋がっていると感じます。

最近では従来の受動的な学習ではなく、アクティブラーニングによるグループディスカッション、グループワーク等を中心とした能動的学習方法が注目されてきています。確かに研修会に参加すると以前よりグループディスカッションの時間を設けている研修会が多くなってきている印象がありアウトプットの重要性が現代の流れの中で感じる事が出来ます。

私たちの仕事も常に学びの連続です。今回の執筆も私にとってはアウトプットの場となりました。このような機会を増やし自身の成長、後輩や学生の指導等に繋げていけるよう努力していきたいと思えます。みなさんも職場でディスカッションや、久しぶりに手書きのメモをとってみてはいかがでしょうか。

広報部から

・研修会情報をお知らせしております。

余白を有効活用して、県内で開催される講習会・研修会情報を公開しております。院内での小さな勉強会でも構いません。「他の病院から参加者を募り、実りある研修にしたい」「情報交換をしてお互いの技術や知識を高めたい」その思いが秋田の作業療法を発展させます。みんなで秋田を盛り上げていきましょう。情報お待ちしております。宛先はこちら akita_ot_kouhou@akita-ot.jp

研修会情報

「2019年度 秋田環境適応講習会企画 “伝達研修”」

日時…2019年7月20日(土)10:00～17:00

場所…大湯リハビリ温泉病院（秋田県鹿角市）

定員…30名(先着)

会費…3000円

詳しくはこちら「申し込みフォーム」➡



第29回東北作業療法学会 in 山形

会期：2019年6月22日(土)・23日(日)

会場：山形国際ホテル

テーマ：「地域共生社会に向けて～みんなで創ろう、支え合う地域～」

当日参加申込：【正会員】6000円 【非会員】10000円

【一般】2000円 【学生】無料

*当日参加も受け付けております。

詳細はこちらまで➡ <https://ot29th.org/about/>

編集後記

平成が終わり新たな時代、令和がはじまりましたが皆さんはいかがお過ごしでしょうか？私は平成が終わった実感がまだ沸いていません笑平成最後の日、私は花見をしていました。桜はいつ見てもとても綺麗で春を感じさせてもらっています。最近桜も散り暑い日が続いています。暑さに負けずに全力で頑張っていきたいと思います。
(yuito)



リハビリテーション機器・生体現象測定装置等販売

高度管理医療機器販売事業 04-000026 号 **有限会社バイオテック**

代表取締役 **飯塚清美**

〒010-0041 秋田市広面字碓 80-1 TEL018-837-0161 FAX018-837-0162

(一社)日本義肢協会登録
東北 101 号



株式会社

千秋義肢製作所

義手・義足・装具・車椅子
リハビリ用品

秋田市新屋豊町 1-22

TEL 018-823-3380

FAX 018-862-5126

<http://www.sensyu-gishi.co.jp>

立位移動補助具 アクティモ NR **SAKAImed**

actimoNR

早期活動を促す

新しいリハビリテーション

脳卒中発症後早期の方でも、下肢・体幹を支持保持して安全に立位姿勢を保てる設計で、早期からの立位・移動リハビリテーションに最適です。



お問い合わせ先

酒井医療株式会社

www.sakaimed.co.jp

東北支店 盛岡営業所
(青森・秋田・岩手エリア担当)
TEL : 019-656-5336

東北支店 仙台営業所
(宮城・山形エリア担当)
TEL : 022-390-6840

仙台営業所 郡山オフィス
(福島エリア担当)
TEL : 024-927-0231